



# 相手を尊重 互いに納得

## サッカー―森保監督に質問

### 理想の学校チーム

「こども新聞サミット」の事前取材として、週刊かほピヨンプレスのこども記者の鷹松ななみさん(11)＝聖ウルスラ学院英智小6年＝ら、理想の学校チームは、サッカー日本代表の森保監督に書面で質問しました。チームのまとめ方などを聞き、理想の学校のヒントを得ました。主なやりとりは、次の通りです。(1面に関連記事)

「こども新聞サミット」の事前取材として、週刊かほピヨンプレスのこども記者の鷹松ななみさん(11)＝聖ウルスラ学院英智小6年＝ら、理想の学校チームは、サッカー日本代表の森保監督に書面で質問しました。チームのまとめ方などを聞き、理想の学校のヒントを得ました。主なやりとりは、次の通りです。(1面に関連記事)

「理想のチームはどんなチームですか。」

「一人一人が仲間のために、組織のために自分の力を全て出し、目標とする結果を出すチーム。それぞれが努力して特長を伸ばし、チームの和が大きくなるように促すことも大事にしています。」

「気持ち折れそうなきときはどうしますか。」

「原理原則に立ち返ります。1度落ち着いて、今何を目指しているのか、何をやるうとしているのか、振り返ります。」

「逆境を乗り越える力は何だと思えますか。」

「自分が置かれている状況でベストを尽くすことです。物事をポジティブに変換し、行動を起こす。選手には、想定外も想定内として準備しようとしてきました。」

「チームで大切にしているルールは何ですか?」

「代表だから特別ということはありません。やるべきことに集中できる環境をつくること、仲間が嫌な思いをしないように考えることです。」

「選手をまとめるのに心がけていることは。」



こども記者の質問に書面で回答した森保監督

「相手を尊重することです。相手の感情にもしっかりと対応した上で、監督として判断を下す。いつでも誰とでも互いの考えを確認し合い、互いが納得する形を見つ

こども新聞サミットに参加したこども記者が4月4日、発足したばかりの「こども家庭庁」について、東京都の同庁で、小倉将信こども政策担当

相にインタビューしました。週刊かほピヨンプレスの鷹松ななみさんも参加しました。鷹松さんは「大人と子どもがうまく連携しない

といけない。一番大切なことは何ですか」と質問。小倉担当相は「大人が子どもを子ども扱いせず、きちんと意見を聞いて受け止めることです」

### 「こども家庭庁」小倉担当相に聞く

## 意見聞き、受け止める

と答えました。

ほかに「子どもに政策の決定権がないなら、意見を聞いても本当の『こどもまんなか社会』とは言えないのではないですか」などの質問も出ました。

小倉担当相は「子どもは日本を支えていく重要な主権者。意見が政策にどう反映されたか、されなかった場合はその理由をきちんと説明したい」と述べました。

鷹松さんは「こどもまんなか社会を実現するために、さまざまな努力が必要であることを知りませんでした。少しでも実現できるように、みんなと違っていた意見も受け入れていきたいです」と決意を新たにしました。



小倉担当相(左)と名刺交換(めいしこうかん)する鷹松さん